JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	科学者・教育者と国会議員が連携する教育・人材政策提言及び社会実装取り組み
Author(s)	若月，聡；若月，温美
Citation	年次学術大会講演要旨集，37：289-292
Issue Date	2022-10-29
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/18545
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

１Ｄ１０

科学者・教育者と国会議員が連携する
教育・人材政策提言　及び　社会実装取り組み

○　若月　聡　（　超党派国会議員連盟「教育立国推進協議会」民間有識者委員　｜　東京理科大学　東邦大学　日本大学　日本工業大学　日本保健医療大学　千葉市青葉看護専門学校　等　），
若月　温美　（　玉川大学　）
（　若月　聡　satoshi-wakatsuki@rs.tus.ac.jp　）

１　はじめに

１－１　発表者等と周辺関連状況

発表者１（若月　聡）は現在、大学５か所及び看護専門学校１か所に於いて、教育業務を担当している。分野は、地球科学・天文学・化学・生物・物理・等である。多様な内容の高等教育課程を基盤に、自身の実践に基づき、とりわけ教育政策や社会実装に関わる研究機会がある。

元文部科学大臣・下村博文衆議院議員・元政務調査会長の事務所方にて開催される政策研究会に、御案内をいただき 2013 年から参加してきた。そして、超党派国会議員連盟「　教育立国推進協議会　」（　会長；　同・下村博文衆議院議員　）に、民間有識者委員の１人として、2021 年 12 月から参画している。また元千葉市長・熊谷俊人千葉県知事の事務所方にて開催される、後援会の政策研究機会に、御案内をいただき 2018 年から参加してきた。

これ等に於ける政策研究、特に人材育成研究分野に於いては、自身の教育場に於ける諸実践等を反映している。また、各機関に取り組み状況等を報告し、連携協同機会となることを企図している。

東京大学・生産技術研究所が協力し、特に STEAM 人材育成研究・取り組みを目的に、産官学連携によるプラットフォーム構築を目指す「　学びのイノベーション・プラットフォーム　」（　STEAM 人材育成研究会　）設立に参画している。同プラットフォームは、法人として 2021 年から設立されている。

発表者２（若月　温美）は現在、大学１か所及び高等学校１か所に於いて、教育業務を担当している。後期中等教育課程（高等学校課程）及び高等教育課程（大学課程）を基盤に、連続性がある教育・研究に、公的なものを含む複数の研究会等の場で携わっている。

１－２　発表者等の諸業務等

これまで発表者１（若月　聡）は、複数の大学等・高等教育機関（　東京理科大学　東邦大学　日本大学　日本工業大学　日本保健医療大学　千葉市青葉看護専門学校　）において、教育の機会を得ており、特に東京理科大学においては、東京・周辺の３キャンパス（神楽坂、葛飾、野田）において、天文分野を中心にした地球科学科目の教育を担当している。その中で、児童幼児期から初等・中等教育期を経て高等教育機関において理工学系人材として育成されることの系統性が重要であることを、研究・イノベーション学会　年次学術大会等に於いて研究発表してきた。

（　2019 年 10 月　研究・イノベーション学会　第 34 回年次学術大会　１Ｈ０２　若月　聡　若月温美　教育連携と人材育成取り組みにおける考察　４　等　）

発表者１（若月　聡）は、地域の社会教育機関において外部指導員（　船橋市総合教育センター・プラネタリウム館　天文指導員　）として、主に天文分野での社会教育活動を支援している。その中で、児童期・幼児期の人材は、自然科学的興味関心の入り口として、天文分野の諸事象に強い興味関心を示すことを実感している。また、初等教育等に関わる方々ともこのことを共有している。これ等の取り組みは、2018 年 7 月 11 日に国際天文

学連合により小惑星 25892 が「　小惑星 Funabashi　」命名された事の理由にもなり、船橋市に於ける科学教育を、励ましている。

また発表者１（若月　聡）は、学校教員等を主とする地学教育研究団体において、役員の一人（　千葉県地学教育研究会　研修担当理事　）として運営を担当している。その中で、児童・生徒、保護者方、学校教員等と直接交流する機会を得ており、前項と同様のことを実感している。これ等の取り組みは、2020 年 1 月 15 日、国際地質科学連合により地質時代区分「　Chibanian　」が命名され、これも世界共通の科学名称となり、科学の社会普及に貢献した。

発表者２（若月温美）は、発表者１と一定重複する地域に所在する後期中等教育機関（高等学校）において、教諭として勤務し教育業務に携わる。また、東京都に所在する私立大学・通信教育課程に於いて、教職に関わる教育業務に携わる。　発表者２（若月温美）は、千葉県船橋市内に所在する私立高等学校の教諭（　学校法人船橋学園・東葉高等学校　家庭科教諭　）を勤める。勤務学校は千葉県船橋市内に長く存在し、以前の女子高等学校を経て現在は共学高等学校である。1925 年より船橋の地にて教育を営む、伝統的学校である。

発表者２（若月温美）が後期中等教育段階において指導支援を担当した人材が高等教育課程に進学後に、船橋市地域・千葉県地域を主に業務を担当する発表者１が、その後の指導支援の機会を得る事例もある。

例えば、千葉県船橋市地域に所在する東邦大学・理学部、日本大学・生産工学部等において、発表者１がこれまでにそのような機会を得た。（　若月　聡　若月温美　「後期中等教育と高等教育の連携に関する研究」　2016 年　第 31 回学術大会　　若月　聡　若月温美　「中等教育・高等教育連携による人材育成取り組み」　2017 年　第 32 回学術大会　　若月　聡　若月温美　中等教育・高等教育連携による人材育成取り組み　4　2018 年　第 33 回学術大会　　等　）

発表者２が勤務する　（右）学校法人船橋学園・東葉高等学校　（右）学校法人玉川学園・玉川大学

東京理科大学・神楽坂キャンパス（東京都新宿区）　　同・葛飾キャンパス　（東京都葛飾区）

船橋市総合教育センター・プラネタリウム館（千葉県船橋市）　日本大学・実籾キャンパス　（千葉県習志野市）
発表者１が、各分野に於ける諸活動の、それぞれ何等かの拠点とする機関

２　先行研究

2020年11月 1日　研究イノベーション学会　第35回・年次学術大会に於いて、永野　博（公益社団法人　日本工学アカデミー　ＥＡＪ）が「　国会議員と科学者による政策共創の実現　」（２Ａ２２）を発表された。これまでの先行する取り組み、海外の事例、国会議員とアカデミアの関係構築、科学情報の組織的共有の国際比較、リテラシー向上策の国際比較、組織的交流がないことによる機会損失、日本工学アカデミーのとるべき方向、等を述べられた。政策研究・立案取り組みに於いて、国会議員等・政治御関係方と科学者等が、協同することの意義を、またその意義を具現化していくための方向、様々な具体策等を指摘された。

研究・イノベーション学会「研究・技術・計画」35巻３号「巻頭言」に於いて、隅蔵康一（政策研究大学院大学）が「日本における産学協同研究のこれまでと、これから」を発表された。その中に於いて、産学共同研究の現状、産学共同研究をめぐる問題、新型コロナ禍が産学協同研究に及ぼす影響、等を述べられた。

３　交錯領域の現状

・　党派国会議員連盟「　教育立国推進協議会　」

発表者１（若月　聡）は、民間有識者委員の１人として、2021年12月から参画している。（　会長；　同・下村博文衆議院議員　最高顧問；　元内閣総理大臣・安倍晋三衆議院議員（故）　元内閣総理大臣・野田佳彦衆議院議員　政党代表・山口那津男参議院議員　会長代理；　政党共同代表・馬場伸幸衆議院議員　政党代表・玉置雄一郎衆議院議員　他　）

超党派国会議員連盟として、与野党から100数10名の国会議員が関与している。国会議員以外、教育に関わる民間分野の関係者が数10名参画している。教育改革の諸分野ごとに６分科会を組織し、分科会ごとの委員会に於いて、設立以来、教育改革政策提言のための研究討議を進めてきた。発表者１も、それ等の中の１分科会・委員会に所属して、取り組んできている。

・　「　学びのイノベーション・プラットフォーム　」（東京大学・生産技術研究所　等協力）

１－１に示す通り、発表者１（若月　聡）はこの間、東京大学・生産技術研究所を中心とし、産官学連携により、STEAM 人材育成研究に取り組む、プラットフォーム構築に参画してきて。法人として設立することを計画し、2021年中に記念企画を以って「　学びのイノベーション・プラットフォーム　」が設立された。

直近に於いては、2022年９月に研究会（オンライン）を開催した。その研究会に於いては、東京大学・生産技術研究所長による開閉会挨拶、及び東京大学長による講評はじめ、中等教育から高等教育までの研究的現場実践と、産業関係方による人材育成研究に関わる発表がなされた。

４　議論

紹介させていただいた先行研究、例えば永野　博「　国会議員と科学者による政策共創の実現　」（　３－２　国会議員とアカデミアの関係構築　）にも述べられている通り、「　政治家と研究者が同じプラットフォーム上に存在する事　」に、有効性があると考える。

発表者・自身が多様な教育業務に於いて、人材育成に携わると共に、本研究・イノベーション学会はじめ様々な場・機会に於いて、様々な人材育成研究に触れる機会を得てきた中で、実感している。またこの事に関わる研究成果を社会に実装していくためには、発表者・自身が複数の政治関係方の、政策研究機会に交流してきた経験からも、上記プラットフォームを構築し、時宜の課題に適切に対応・取り組んでいける関係を常時保つことが、大変有効で課題・実現可能性を高める、と考えている。

そのことから　１－１　及び　３　に示す、東京大学・生産技術研究所を中心に産官学連携によるプラットフォーム構築を、法人設立として目指す「　STEAM 人材育成研究会　」には、発表者１が、１－１に示した政治関係方との協同を以て、同プラットフォーム構築（法人設立）に参画することとし、御関係方にも御承知をいただいている。

民間有識者委員として参画する超党派国会議員連盟「　教育立国推進協議会　」に於いては、会長；元文部科

学大臣・下村博文衆議院議員はじめ諸関係方に、教育・学術はじめ社会各所に於いて、様々な取り組みを、組織し自ら取り組み社会に実装していく事について、大いに激励いただいている。

本研究・イノベーション学会に於いては「　２　」に紹介させていただいた先行研究取り組み等があることから、発表者も、是非本学会に於いて、「　産官学連携を含めた、政治関係方と科学者との協同　」取り組みが組織され発展することを、是非とも願うところである。「　２　」に紹介させていただいた「　国会議員と科学者による政策共創の実現　」を発表された永野　博　等が、今後本学会に於いてこの分野の取り組みを組織されていくならば、是非とも参画させていただきたいと考える。

また、現在参画させていただいている、本研究・イノベーション学会「　新しい活動検討WG　」にも、今後是非反映させていきたいと考える。

参考文献・情報等

- 元文部科学大臣　下村博文衆議院議員　「　日本の未来を創る啓育立国　」　2019年 8月11日
- 千葉県知事（元千葉市長）　熊谷俊人　「　千の葉をつなぐ幹となれ　」　2020年 9月 1日
- 自由民主党政務調査会長下村博文衆議院議員「　ＧＤＷ興国論　幸福度世界一の国へ　」2021年 4月26日
- 公益社団法人・日本工学アカデミー（ＥＡＪ）　永野　博　「　国会議員と科学者による政策共創の実現　」2020年11月 1日　研究・イノベーション学会　第35回・年次学術大会　（　２Ａ２２　）
- 隅蔵康一（政策研究大学院大学）が「日本における産学協同研究のこれまでと、これから」　研究・イノベーション学会「研究・技術・計画」　35巻３号「巻頭言」　2020年
- 一般社団法人日本ＭＯＴ振興協会「第８回科学技術イノベーション政策発表会」2022年 1月25日（内閣府　内閣官房　総務省　文部科学省　厚生労働省　農林水産省　経済産業省　国土交通省　環境省　防衛省）
- 研究・イノベーション学会　「　日本学術会議のあり方についての意見　」　2021年 2月17日
- 研究・イノベーション学会第 37 回シンポジウム「経済安全保障と科学技術イノベーションの両立へ」2022年 8月16日
- 教育イノベーション・プラットフォーム　「　第５回STEAM人材育成研究会　」　2022年 7月 1日
- 1999年12月16日　中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
- 第５期　科学技術基本計画（平成28年度～32年度）　内閣府
- 2013年11月15日　文部科学大臣記者会見配布資料「主な文部科学行政施策38項目」
- 2015年2月16日　下村博文文部科学大臣「高大接続改革の狙いは」
- 2017年2月27日　下村博文「2045年　シンギュラリティに向けて」　講演資料
- 下村博文　青木仁志　「志の力」　2017年10月22日　アチーブメント出版
- 東京大学生産技術研究所・次世代育成オフィス（ONG）　活動報告　2015年度
- 科学技術振興機構委託・千葉大学「未来の科学者養成講座」事業報告書　2010年度
- 村松泰子　　女性の理系能力を生かす　専攻分野のジェンダー分析と提言　1996年　日本評論社
- 若月　聡　若月温美　「後期中等教育と高等教育の連携に関する研究」　2016年　第31回・年次学術大会
- 若月　聡「初等教育段階から高等教育にかけての人材育成支援に関する研究」2016年第31回年次学術大会
- 井出英策「財政から読みとく日本社会」　2017年3月22日　岩波書店
- 若月　聡　若月温美「中等教育・高等教育連携による人材育成取り組み」　2017年第32回・年次学術大会
- 若月　聡「教育連携と人材育成取り組みにおける考察」　2017年　第32回・年次学術大会
- 若月温美「ワーク・ライフ・バランス」社会の実現に向けた人材育成の提案　2018年第33回年次学術大会
- 若月　聡　教育連携と人材育成取り組みにおける考察　３　2018年　第33回・年次学術大会
- 若月　聡　若月温美　中等教育・高等教育連携による人材育成取り組み　４　2018年　第33回学術大会
- 若月　聡　若月温美　教育連携と人材育成取り組みにおける考察　４　2019年　第34回・年次学術大会
- 若月　聡　若月温美　2020年コロナ禍とその後に於ける教育・人材育成　2020年　第35回・年次学術大会
- 若月　聡　若月温美　社会連携による人材育成取り組みについて　2021年　第36回・年次学術大会

（　以　上　）